

第4章 1. 災害時の命をつなぐ救急対応

高校生は、日頃から地域内での支援者として期待されていますが、災害時にはその役割がさらに高まります。災害時、自分の安全が確保されたあとの救急対応として、私たちにはどのようなことができるのでしょうか。

考えてみよう

安全確保ができたあとは……

災害発生直後、自分の安全が確保されたあと、支援者としてどのようなことができるか考えてみましょう。

阪神・淡路大震災や東日本大震災などの大規模な災害では、災害発生直後、まだ公的な救助が本格化していないとき、地域住民が協力して、けが人などの救助を行いました。

●災害発生直後、住民が行った救助

- 阪神・淡路大震災では、家などの建物の倒壊により、その下敷きになっている人が多く、その救助を行った。
- 東日本大震災では、津波にのまれた人が多く、津波に流されてきた人の救助を行った。



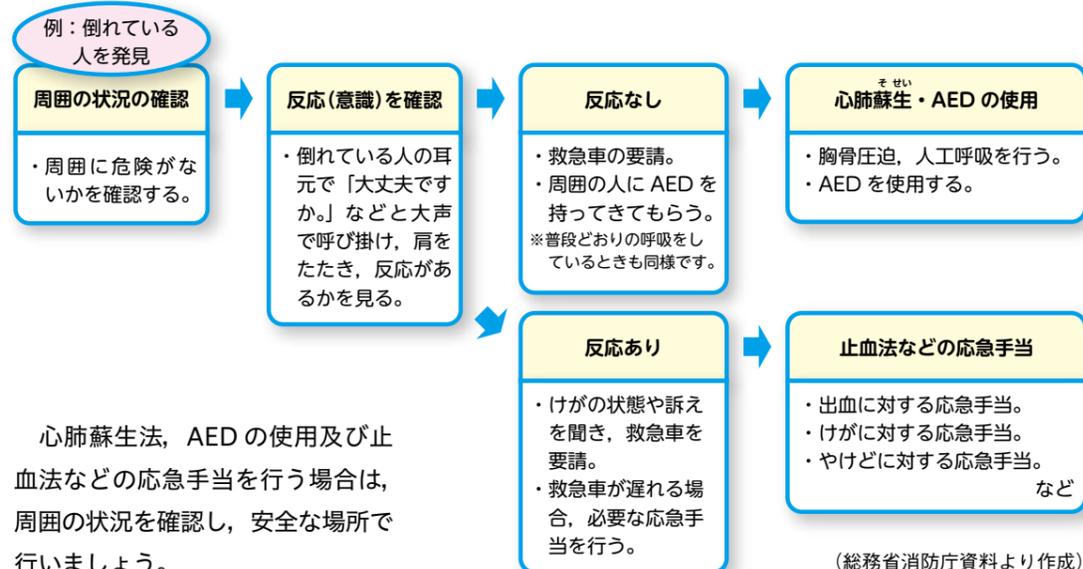
阪神・淡路大震災での住民による救助 (神戸市灘区)

災害直後は、救助に必要な道具がすぐ近くにない場合があります。そのようなときは、別なもので代用して救助を行えることも覚えておきましょう。また、救助中に危険が伴う場合もあるので、その時には安全が確保されたあとに救助の協力をするようにしましょう。

知っておこう

身につけておきたい災害時の救急対応の流れ

災害時、倒れている人やけがをしている人がいる場合、どのような流れで対応したらよいか覚えておきましょう。

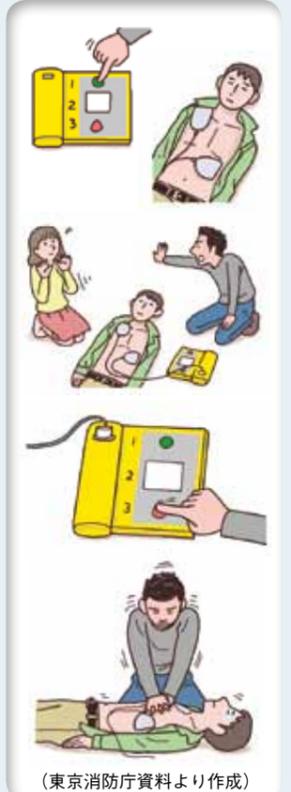


やってみよう

AED (自動体外式除細動器) の操作

AEDの操作方法は次のとおりです。倒れている人を見つけ、呼び掛けて反応がない場合、ためらわずAEDを使用できるように、訓練などの機会をとらえて練習しておきましょう。※AEDは電源が入ると音声メッセージと点滅するランプで手順を指示してくれます。落ち着いてそれに従ってください。

- AEDを傷病者の近くに置き、電源を入れる。**
 - ・AEDの本体をケースから取り出し、電源を入れます。以降は音声メッセージと点滅するランプに従って操作します。
- 電極パッドを貼り付ける。**
 - ・傷病者の衣服を取り除き、電極パッドの粘着面を傷病者の胸の皮膚にしっかりと貼り付けます。機種によっては電極パッドのケーブルを本体の差込口(点滅している)に入れるものもあります。
- 心電図の解析**
 - ・電極パッドを貼り付けると「体に触れないでください。」などの音声メッセージが流れ、自動的に心電図の解析が始まります。このとき「みなさん、離れて!」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認します。
 - ・「ショックは不要です。」などの音声メッセージが流れた場合は、ただちに胸骨圧迫を再開します。
- 電気ショック**
 - ・AEDが電気ショックを加える必要があると判断すると「ショックが必要です。」などの音声メッセージが流れ、自動的に充電が始まります。充電には数秒かかります。
 - ・充電が完了すると「ショックボタンを押してください。」などの音声メッセージが流れ、ショックボタンが点灯し、充電完了の連続音が出ます。
 - ・充電が完了したら「ショックを行います。みなさん離れて!」と注意を促し、誰も傷病者に触れていないことを確認してからショックボタンを押します。
- 心肺蘇生の再開**
 - ・電気ショックが完了すると「ただちに胸骨圧迫を開始してください。」などの音声メッセージが流れるので、これに従い胸骨圧迫を再開します。
- AEDの手順と心肺蘇生の繰り返し**
 - ・心肺蘇生を再開して2分ほどたつと、再びAEDが自動的に心電図の解析を行います。音声メッセージに従って傷病者から手を離し、周りの人も傷病者から離れます。
 - ・以後は③④⑤の手順を、救急隊に引き継ぐか、傷病者が目を開けたり、普段どおりの呼吸が出現したりするまで繰り返します。
 - ・救急隊に引き継いだときは、傷病者の倒れていた状況、行った応急手当、電気ショックの回数などをできるだけ伝えます。傷病者が目を開けたり、普段どおりの呼吸が出現したときは、気道確保が必要になるかもしれないため、慎重に傷病者を観察しながら救急隊を待ちます。



あなたの通う通学路のどこにAEDがあるか確認しておきましょう。

コラム

トリアージ (triage)

大規模災害時は、医療施設・医療スタッフ・医薬品や医療器具などの医療資源が不足することがあります。そこで、それらを有効に活用するため傷病者を以下のように分類してタグで色分けし、Iから優先して治療や搬送を行います。これをトリアージ(識別救急)と言います。

- 0 不処置群・死亡群(黒)……既に死亡もしくは処置を行っても救命が不可能
- I 最優先治療群(赤)……生命を救うため、ただちに処置が必要
- II 非緊急治療群(黄)……多少治療が遅れても、生命に危険がない
- III 軽処置群(緑)……ほとんど専門的治療を必要としない軽度の傷病

